

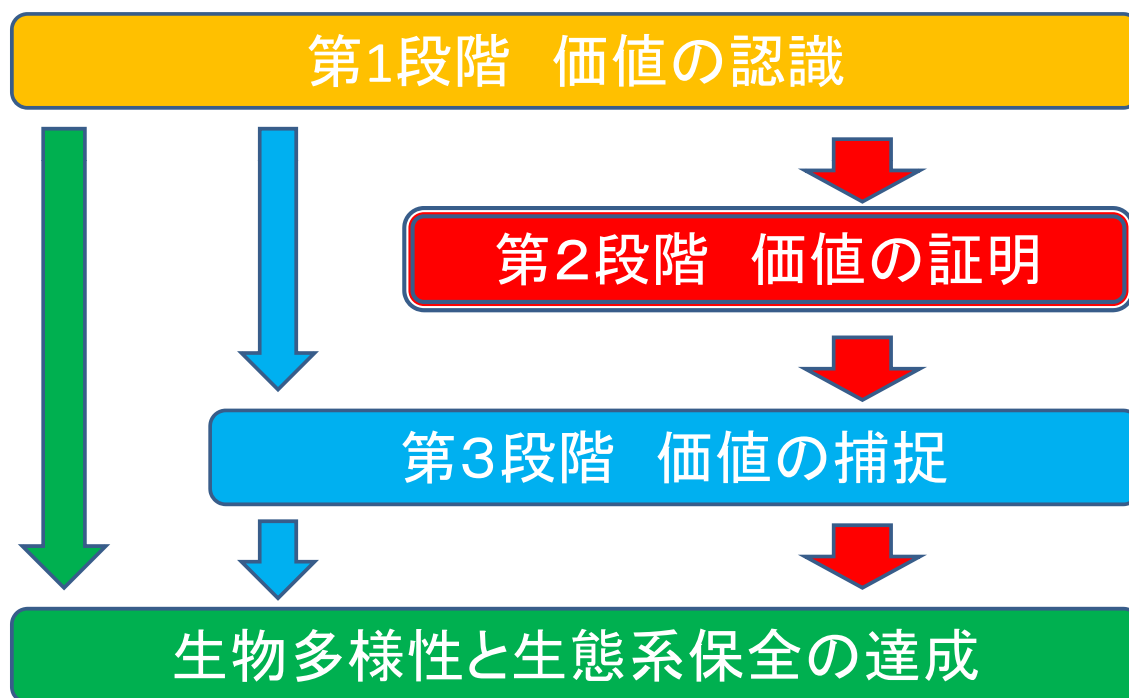
生物多様性と生態系サービスの 経済的価値と合意形成

吉田 謙太郎
長崎大学 環境科学部

生態系サービス保全と合意形成

- TEEBの3段階アプローチ
 - 経済的価値評価の意義と位置づけ
- 生態系(サービス)保全と持続的利用
 - 利害調整と合意形成
 - 沖縄県やんばる地域の経済的評価
 - 鹿児島県出水市のツル保護と鳥インフルエンザ
 - ブラジルとインドネシアの事例
- 「受益への支払い」と「被害補償」の乖離
 - 放射能汚染による生態系サービス低下

TEEBの3段階アプローチ



TEEBにおける結論と勧告

- 自然の価値を可視化 (visible) する
- 価格が付けられないものに価格を設定する
- リスクと不確実性に対する説明責任
- 将来の価値評価
- より良い管理のための、より良い測定
- 自然資本と貧困の減少
- ボトムラインを超えて一情報公開と補償
- インセンティブの変更
- 保護地域が金銭的な価値をもたらす
- 生態系インフラと気候の変化
- 自然の経済学の主流化 (mainstreaming)

生態系保護と持続的利用のための合意形成

- 鹿児島県出水市におけるツル保護政策
 - ー 絶滅危惧種と農作物の食害
 - ー 冬期間の保護地域設定(干拓地)
 - ー 保護政策・活動、観光、中学生の羽数調査
 - ー 鳥インフルエンザの発生と養鶏への影響(2010年)
- 鳥獣害と農林業
 - ー イノシシ(283,100)、シカ(309,500)、サル(16,200)、カモシカ(800)、クマ(1,900)、カワウ(35,100) *2009年度狩猟・有害捕獲数
 - ー 絶滅危惧種と農林業被害, e.g. ツシマヤマネコ

保護地域による利益と可視化

- 沖縄県やんばる地域の絶滅危惧種保護
 - ー 北部3村の森林271km²のうち78km²は米軍演習場、66km²は私有林
 - ー ヤンバルクイナやヤンバルテナガコガネ、ノグチゲラなどの保護は実現可能か？
 - ー 森林伐採、外来種、開発、ロードキル、密猟
 - ー 存在価値の可視化
- 生態系保護の経済的価値評価による可視化
 - ー PES、保護地域、国立公園、世界自然遺産

生態系サービスの内部化による保全

- **ブラジルの民有地等における自然保護**
 - ー 民有地自然保護区(RPPN)
 - ー パンタナル湿原(世界遺産)における農業と保護
 - ー 企業との連携によるPESモデル事業
 - ー 農地開発と法定保存林をめぐるコンフリクト
- **インドネシアにおける国立公園**
 - ー 自然環境保護と住民利用の対立解消
 - ー 水源利用企業に対する課金(アクセス+売上)
 - ー 保護活動のための資金創出メカニズム
 - ー フリーライドの解消、価格付け
- **インセンティブ転換による主流化**

「受益への支払い」と「被害補償」の乖離

- 放射能汚染による**供給サービス(食料、水)**への影響に関する経済評価
 - ー 2012年1月9日実施
 - ー 全国721名に対するインターネット調査
 - ー 汚染回避支出、支払い・受取意志額による推定
- 支払いはより少なく、補償はより多く
 - ー 放射能汚染除去への支払い意志額:1万4千円
 - ー 放射能汚染被害の補償受取意志額:18万9千円